

## 薬用・有毒植物図鑑をつくろう！

科目責任者 阿 部 渉  
学年・学期 1 学年・3 学期

### I. 前 文

本学構内に生育する薬用植物および有毒植物の押し葉標本（ラミネート標本）を作製する。標本を種同定し、薬用植物や有毒植物としての特徴を調べ、世界でただひとつの薬用・有毒植物図鑑を完成させる。これらの経験をとおり、薬用植物と有毒植物に関する初歩を理解する。野外実習中の安全確保および機材の都合上、受講生数は2名までとする。

### II. 担当教員

阿 部 渉（基盤教育部門）

### III. 一般学習目標

身近に生育する薬用植物および有毒植物の基本的特徴を理解する。

### IV. 学修の到達目標

- ・押し葉標本（ラミネート標本）を作製できる。
- ・身近な薬用植物および有毒植物を同定し、それらの基本的な特徴を説明できる。

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の学修目標：

- ・PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。（p. 20）
- ・RE-01-01-02 何事にも知的好奇心を持って取り組むことができる。（p. 27）

### V. 授業計画及び方法 \*（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- （1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）  
2：ディスカッション， ディベート 3：グループワーク 4：実習， フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	10	16	水	4	・本学構内において薬用植物および有毒植物を採集する。 ・押し葉標本（ラミネート標本）を作製する。 ・図鑑などを使って、標本を同定し、薬用植物や有毒植物としての特徴を調べる。 ・自分だけの薬用・有毒図鑑を完成させる。  ※実際の講義日は受講生と相談のうえ決める。 1回の時間を大幅に延長することもある。 合計時間が7コマ分になるように調整する。	阿 部 渉	4
2		23	水	4			4
3		30	水	4			4
4	11	6	水	4			4
5		13	水	4			4
6		20	水	4			4
7		27	水	4			4

### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

作製物（植物図鑑）（90%）および授業への参加態度（10%）に基づき評価する。

## Ⅶ. 教科書・参考図書・A V資料

### 【教科書】

以下3点の資料を配布する。

- ・『令和6年度人文自然選択科目 薬用・有毒植物をつくろう!』
- ・『薬草ガイドブック：野外編（改訂版）』（社団法人日本植物園協会第四部会編著，社団法人日本植物園協会，2020年）
- ・『薬草ガイドブック：薬草園へのいざない（改訂版）』（社団法人日本植物園協会第四部会編著，社団法人日本植物園協会，2019年）

### 【参考図書】

- ・『フィールド版 日本の野生植物I（改訂新版）』（大橋広好ほか編，平凡社，2021年）
- ・『フィールド版 日本の野生植物II（改訂新版）』（大橋広好ほか編，平凡社，2021年）
- ・『新訂生薬学（改訂第9版増補）』（木村孟淳・酒井英二・牧野利明編，南江堂，2023年）
- ・『生薬と漢方薬の事典』（田中耕一郎著，奈良和彦・千葉浩輝監修，日本文芸社，2020年）
- ・『薬草の眩き：対馬から日本各地の山野へ薬草園へ（追補再改訂版）』（森 正孝・森 昭雄・國分英俊著，メディカルサイエンス社，2019年）
- ・『漢方のくすりの事典：生ぐすり・ハーブ・民間薬（第2版）』（鈴木 洋著，医歯薬出版，2011年）
- ・『危険・有毒生物』（小川賢一ほか監修，学習研究社，2003年）
- ・『日本の有毒植物』（佐竹元吉監修，学習研究社，2012年）

### 【ウェブサイト】

- ・『薬用植物総合情報データベース』（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）（[mpdb.nibiohn.go.jp](http://mpdb.nibiohn.go.jp)）
- ・『今月の薬草』（日本薬学会）（[www.pharm.or.jp/herb/list.html](http://www.pharm.or.jp/herb/list.html)）
- ・『京都薬用植物園』（武田薬品工業株式会社）（[www.takeda.co.jp/kyoto/area/ichiran.html](http://www.takeda.co.jp/kyoto/area/ichiran.html)）
- ・『くすりの博物館 薬草に親しむ』（株式会社エーザイ）（[www.eisai.co.jp/museum/herb/index.html](http://www.eisai.co.jp/museum/herb/index.html)）
- ・『自然毒のリスクプロファイル』（厚生労働省）（[www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/](http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/)）
- ・『自然毒』（消費者庁）（[www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/food\\_safety/food\\_safety\\_portal/natural\\_poison/](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/food_safety_portal/natural_poison/)）
- ・『有毒植物による食中毒に注意しましょう』（厚生労働省）（[www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/yuudoku/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/yuudoku/index.html)）

## Ⅷ. 質問への対応方法

原則として随時受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作製した植物図鑑は添削のうえ返却する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。

XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01, RE-01-01-02